

# 行政視察等報告書

平成 29 年 2 月 16 日

境港市議会  
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう

代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	平成29年2月2日（木）～平成29年2月4日（土）
2 視察等先 及び内容	平成29年2月2日（木） 東京都中央区日本橋箱崎町 日本アイ・ビー・エム 本社 「カマコンバレーの活動手法」について  平成 29 年 2 月 3 日（金） 神奈川県大和市 大和市役所にて 「学力向上支援事業 放課後寺子屋やまと」について  神奈川県座間市 座間市役所にて 「ゴミ収集・分別等の取り組み」について  平成 29 年 2 月 4 日（土） 東京都品川区西大井 ヘルスケアタウンにしおおいにて 「東京地区における事業展開と課題」について
3 視察等議員	米村 一三、平松 謙治、景山 憲、岡空 研二、柗 康弘、 森岡 俊夫、濱田 佳尚
4 総 経 費	合計（7名） 456,730 円 （一人当たり 65,247 円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

## 行政視察の内容

平成 29 年 2 月 2 日 (木)

会場：日本 IBM 本社

① 「カマコンバレーの活動手法」について

報告者 濱田 佳尚

視察先 東京都中央区日本橋箱崎町 日本アイ・ピー・エム本社 (会場を提供頂く)

説明者 高柳 順一氏 (カマコンバレーメンバー、日本アイ・ピー・エム勤務)

渡辺 みさき氏 (カマコンバレーメンバー、ヒトノコト主宰)

その他に、メンバー4名がアシストされた。

### 【内 容】

まず、初めに担当者からカマコンバレーについて、カマコンバレーは、鎌倉で生まれた「街の活動の支援を楽しみながらやっている活動」であり「この街を愛する人を全力支援!」、「ぜんぶ、ジブンゴト」というコンセプトを持って活動している団体であるという事の説明を受けた。

毎月、定例会が開かれ、①プレゼン②プレスト③アイデア発表④仲間⑤アクションという5つのステップで定例会は進行される。現在会員数は132名で、法人会員は32社ある。また年齢層は幅広く、学生からご年配の方まで在籍している。元々はITに関係する人を中心に発足された団体であるが、現在IT関係者は3割ほどとのこと。毎月の定例会にはゲストを含めて100名以上が参加する。

定例会では、鎌倉を盛り上げるための様々なプロジェクトが生み出された。プロジェクト活動のための資金は『likuni』という鎌倉市限定のクラウドファンディングサービスを立ち上げ、インターネット上で資金を集めている。likuniの実績は三年半でチャレンジ数38件に対し達成率92.1%という驚異の高さである。

視察の後半ではカマコンバレーのメンバーと会派きょうどうのメンバーで定例会の模擬体験させていただいた。特に、『ブレインストーミング=プレスト』の体験を集中的に実施し①仲間のアイデアに乗っかる。その場を大切にすること。②とにかくアイデアを沢山出すこと。③アイデアが出ない人は、とにかく誰かのアイデアを誉めること。といった点に留意しながら、体験を行った。

### 【所 見】

実際に体験する事で、カマコンバレーの定例会の進め方は、課題解決のための様々な可能性を探るために有効的であると感じた。議会や、様々な会でも効果的に使用し、今後の活動に活かしていきたい。

平成 29 年 2 月 3 日（金）午前 10 時より

②「学力向上支援事業 放課後寺子屋やまと」について

報告者 米村 一三

視察先 神奈川県大和市

説明者 教育委員会 教育部指導室 主事 佐藤 隆之 氏

この事業は、放課後の小学校空き教室を利用して、児童の宿題や予習復習のサポートをすることにより、基礎学力の向上と学習習慣の定着を目的にスタートした。

平成 26 年度から開始され 28 年度の事業費は当初予算で 83,556 千円である。費用は全額市費で賄っているとのことである。

当時の学力が全国平均を下回っていたことから企画された事業である。平成 26 年 5 月のスタート時は、市内の小学校 6 校をパイロット校として 4～6 年生を対象としていた。

翌 27 年には、市内全 19 校に導入し、先にスタートしたパイロット校では対象を 1～6 年生へと拡大した。平成 28 年からは、事前登録制を廃止して全 19 校で全学年の児童を受け入れ開始しており、平成 27 年には、「夏休み寺子屋やまと」も開始し、夏休み期間に 10 日間（1 日 90 分を 2 時限）開催し、夏休みの宿題を中心に学習支援を行っている。

#### ☆寺子屋の人員配置

○寺子屋コーディネーター 1 名（元校長・教頭・教務主任 給与 月 22 万円）

週 4 日間勤務で、1 日 6 時間勤務

寺子屋の勤務としては 3 日間、午前や空いた 1 日は教員の指導などの授業力向上の支援を行う。

○学習支援員 3 名（教員免許取得者 時給 1,000 円）

週 3 日で 1 日 4 時間勤務

寺子屋の準備後片付け、学習支援のみを行う

○ボランティア 0～3 名（地域協力者、大学生）

受付、準備手伝い、学習支援を行う

#### ☆児童クラブとの関連

当初は児童クラブに参加している児童は参加を認めていなかった。空き教室や時間帯・支援員の学校ごとの状況を検討し、平成 28 年 9 月から試行を開始し、現在は全児童が参加可能であり、児童クラブ職員が送迎を担当している。

#### ☆参加児童数の推移

平成 26 年には年間延べ 4,541 人で 1 日 1 校あたり 9.9 人であったが、平成 28 年 10 月時点で、延べ 30,392 人が参加し、1 日 1 校あたり 33.1 人が参加している。

☆放課後寺子屋大和の評価について（三者の立場からの評価）

- 子どもは ⇒
  - ・落ち着いて勉強できる
  - ・分からないことを教えてくれる
  - ・友達と一緒に学習できる
  
- 保護者は ⇒
  - ・宿題を終えて帰宅してくれる
  - ・放課後、安心して預けられる
  - ・適切な学習指導が無料で受けられる
  
- 学校側は ⇒
  - ・子供は真剣に学習している
  - ・会話やふれあいを楽しむ場にもなっている
  - ・少人数のためきめ細かい個別支援ができたと感じている
  - ・学習習慣の確立のため、低学年から通う意義は大きいと感じた

☆今後の課題として

- ・参加者が増加しているため、開催場所の確保や支援員の増員への対応が必要である
- ・教員免許を持った支援員の人材確保
- ・児童クラブ、放課後ひろばなどの放課後事業とのすり合わせ等があるとのこと

☆境港市での可能性について

予算対応にしても、当初から約4倍となっているが、子供、保護者、学校側の全てから高評価の事業となっている。子供の学力向上を目指すには大きな原動力となる事業に思える。小学校数が7校である当市では、この費用の4割程度で実施できると思える。

平成29年2月3日（金）午後1時30分より

③「ゴミ収集・分別等の取り組み」について

報告者 景山 憲

○視察先 神奈川県座間市

○視察の概要

当日は、座間市環境経済部資源対策課クリーンセンターを訪問し、ゴミ処理事業に係る、収集車のラッピングとゴミ分別アプリ「さんあーる」について説明を受けた。

△収集車のラッピングについて

「収集車にラッピングを描く」という発想は、平成24年当時、可燃ごみの増加傾向に対して、ゴミの減量化・処理経費削減・環境負荷の軽減・循環型社会の推進の観点から、啓発活動の一環として、ごみ収集車を目立つように、市のマスコットキャラクター「ざまりん」

と啓発キャラクター「パッカ君」をラッピングしたもので、「ゴミは汚い物」「収集車は汚い物」といった先入観を払拭するために、職員の協議により張り付けたものである。

ラッピングのデザインは、クリーンセンターの現職職員が作画し1台ごとにデザインを変え、原案から制作の完成まで現場の職員を含めて多くの職員が参画した。完成したデザインをラッピング業者がシール化し収集車両に張り付けたものである。

経費は、5台分で約20万円

#### △ラッピングによる効果について

収集車をきれいに保つということを通して、職員の意識の変化に繋がり、通常の収集業務中に、子どもから声をかけられたり、手を振ってくれたりがあるようになり、職員の業務に対する姿勢（服装、言葉づかい、所作等）が前向きになった。そして、このことが現在1,124日無事故に繋がった。また、現場収集員による保育園、小学校等や市の行事での分別啓発活動が年間を通じて実施できている。平成27年度では33回開催された。

#### △ごみ分別アプリ「さんあ〜る」について

ゴミ出しカレンダーを収録。ゴミ出しの内容、分別リストをチェック等の情報をスマートフォンで配信している。

#### △所感

概略以上の説明を受けたところである。

私は、ゴミの分別の周知を通じて、経費削減はもちろんであるが、さらには収集車両にラッピングをすることにより市民に明るいイメージを提供し、車両を常に綺麗に保つことを心掛け子ども達にも注目されるようになった。また、現場職員に仕事に取り組む姿勢に大きな変化が出てきた等の点に注目したところである。とりわけ、現業職員が率先して分別促進に向けて啓発講座を主催していることに注目したところです。今後、本市でもこうした事業実施を通じて一層のゴミ減量化に取り組むことが求められる。現在の米子市への家庭系可燃物の搬出をできる限り減量して行く上でも大いに学ぶべきことだと考えるところであります。

平成29年2月4日（土）

#### ④「東京地区における事業展開と課題」について

報告者 米村 一三

視察先 東京都品川区西大井 ケアホーム西大井こうほうえん

説明者 施設長 田中 とも江 氏

#### ○視察の目的

「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される《こうほうえん》を目指す」

として、昭和 62 年 4 月に特別養護老人ホームさかい幸朋苑の事業を開始された社会福祉法人こうほうえんは、近年積極的に東京都において事業拡大をされている。その拠点の一つとなるヘルスタウンにしおおいを訪問し、事業の内容や方針、課題などをご教授を頂いた。

#### ○ケアタウン西大井の概要

平成 21 年に開設されたこの施設は、少子化やそれに伴う小中一貫校に踏み切った品川区の実情から、使用されなくなった小学校の校舎を活用している。地域の要望を入れて、校舎の 1 階には保育園、2 階と 3 階にはケアホームを幸朋苑が設置した。さらに区民のための老人福祉センターも併設されて事業運営は幸朋苑に委託されている。また元々あった体育館、運動場は NPO 法人ウェルカムセンター原が運営している。

この計画には 8 法人の応募があったが、幸朋苑が選定された理由としては、以下の理由によるものであった。

- ・ 経験に裏打ちされた経営方針
- ・ 居室の作り方にも思想があり、区の運営方針と合致する
- ・ すでに実施している鳥取県での複合施設のノウハウが区の構想にふさわしい

#### ○東京都での事業展開について

##### ☆ヘルスケタウンうきま（北区浮間）

介護老人福祉施設うきま幸朋苑の他に、保育施設や在宅サービス、ベーカリーカフェを運営している。

##### ☆キッズタウン東十条保育園（北区東十条）

保育園と児童発達支援事業所を運営する。

##### ☆新砂保育園・地域密着型介護施設（江東区新砂）

保育園とグループホーム、多機能ホーム、ショートステイ施設を運営している。

##### ☆岩淵保育園（北区赤羽）

保育園の運営のみ。

##### ☆ヘルスケタウンむかいはら（板橋区向原）

サービス付き高齢者向け住宅、保育園、診療所、在宅サービス施設などに加えて、地域交流スペースとしてのレストランを運営している。

##### ☆ヘルスケタウン下落合（新宿区下落合）

現在は保育園のみであるが、平成 29 年 4 月から在宅サービスの施設が完成し、運営する予定である。

## ○所感

対応いただいた、田中 とも江施設長のパワフルな説明に感銘を受ける。施設の運営にあたっては、誰でも自由に施設に出入りできること、管理のために規制をするのではなくできるだけ自由な行動ができるよう運営や設備に配慮すること、職員のスキルアップを常に図るなど、日頃からの方針を語られた。

課題として、高スキル高学歴の職員を確保する必要があるが、人件費の増大が伴うことを挙げられた。

鳥取県だけでなく首都圏においても、業容の拡大を図っておられる、「社会福祉法人こうほうえん」のサービスを、境港市においても将来に亘って提供頂けるよう情報の共有化を保つ努力が必要であると感じたところである。